

1. 授業の基本情報・概要

(1) 授業担当者と受講者

担当者：鴛原 進
履修者合計：37人
教育学部：22人
法文学部：15人

(2) 授業の到達目標

- (1) 学生が、社会認識教育の授業理論を考え、授業を分析、説明できる。
- (2) 学生が、中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の学習指導案を作成・分析し、教材研究をし、模擬授業を実施しそれを検討できる。

(3) 授業概要

- 第1回：中学校社会科・高等学校公民科の授業とは
- 第2回：中学校社会科公民的分野の学習指導案の作成と教材研究の在り方
- 第3回：高等学校公民科の学習指導案の作成と教材研究の在り方
- 第4回：教材研究の深化に向けて（中学校社会科公民的分野を中心に）
- 第5回：教材研究の深化に向けて（高等学校公民科公共を中心に）
- 第6回：教材研究の深化に向けて（高等学校公民科倫理を中心）
- 第7回：教材研究の深化に向けて（高等学校公民科政治・経済を中心）
- 第8回：社会科学習指導案作成と情報機器及び教材の活用の検討（中学校社会科公民的分野を中心に）
- 第9回：公民科学習指導案作成と情報機器及び教材の活用の検討（高等学校公民科公共を中心に）
- 第10回：公民科学習指導案作成と情報機器及び教材の活用の検討（高等学校公民科倫理／政治・経済を中心に）
- 第11回：模擬授業と検討（中学校社会

科公民的分野：財政の支出／国家の収入を中心に）（日本税理士会連合会教員養成大学寄附講座）

第12回：模擬授業と検討（高等学校公民科公共：税の歴史を中心に）（日本税理士会連合会教員養成大学寄附講座）

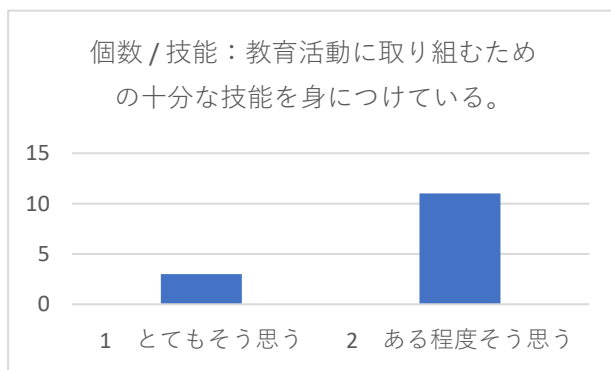
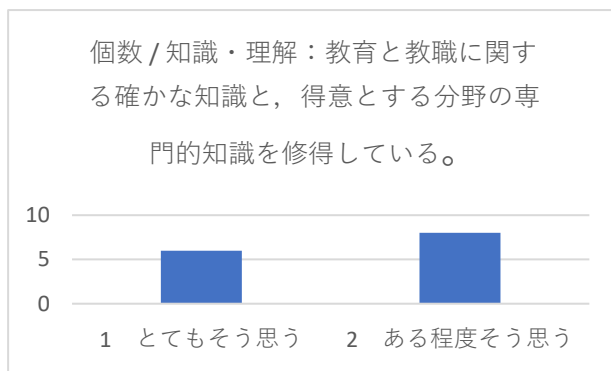
第13回：模擬授業と検討（高等学校公民科倫理を中心に）（実地指導講師）

第14回：模擬授業と検討（高等学校公民科政治・経済を中心に）（実地指導講師）

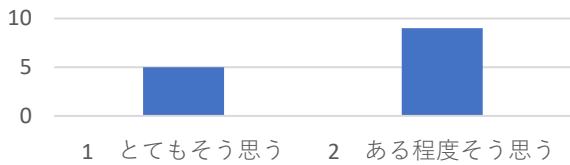
第15回：公民教育における発展的学習と情報機器の活用、最終課題の説明及びまとめと振り返り

2. 授業評価・授業研究の内容

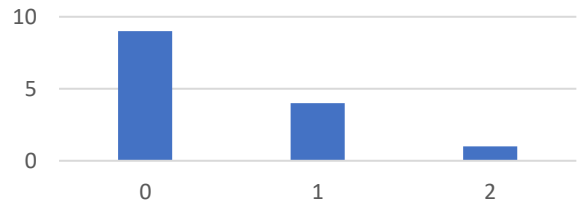
最終課題提出時に、DP対応調査を教育学部履修者22人に依頼し、14人が回答した。



個数 / 思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現すること…



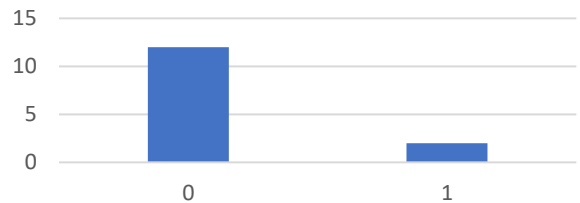
個数 / この授業を受けて、自分で自発的に読んだ本や論文の数はいくつですか。ない場合は0とご入力ください。



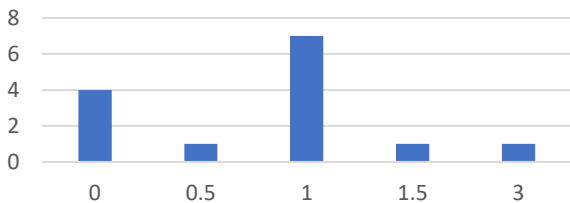
個数 / 関心・意欲・態度：教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。



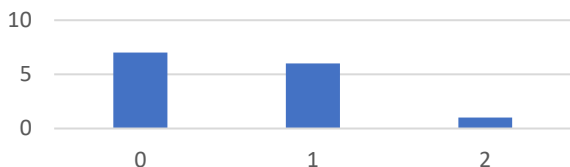
個数 / この授業をきっかけにして取り組んだ、教育実践や授業時間外での制作等の自発的活動は何件ありますか。ない場合は0とご入力ください。



個数 / この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。



個数 / この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。



3. 総括

この講義においては、今年度も、学外組織や人物と連携した。従前の実地指導講師（愛媛県立高等学校・教頭）、愛媛県選挙管理委員会に加えて、日本税理士会連合会教員養成寄附講座により、税務署（税務官）や税理士の方々の話や教材化への視点を学ばせることができた。

それを踏まえ、学生の自主的・自発的活動へ進める手立て（それは、真に自発的なのか？）も必要になってくる。